

幼児音楽教育におけるピアノ指導法の研究

「ブルグミュラー25の練習曲」からⅡ

池田 敦子

田中 幸子

Research of Piano Teaching Method in Childhood Music Education

From“A Performance of F.Burgmuller’s 25 Etudes”NO.2

Atsuko IKEDA

Sachiko TANAKA

キーワード：ブルグミュラー、標題音楽、ピアノ学習、練習曲

1、はじめに

著者は先に本誌第7号において「幼児音楽教育におけるピアノ指導法の研究「ブルグミュラー25の練習曲」からⅠ」を発表した。音楽科「伴奏法」、初等教育科「音楽Ⅰ・Ⅱ」、保育科「器楽Ⅰ・Ⅱ」の授業時間の一部を使い、標題音楽であるブルグミュラー作曲「25の練習曲」を教材とし、第3番「パストラール」、第15番「バラード」、第20番「タランテラ」、第22番「バルカローレ」から演奏及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基本的な能力を培い、豊かな情操を養い、幼児音楽の指導法について指導の立場から有効性を考察した。

本論は、先の考察を踏まえたうえで、保育科「器楽Ⅰ・Ⅱ」の授業時間の一部を使い昨年度と同じくブルグミュラー作曲「25の練習曲」から第2番「アラベスク」、第9番「狩り」、第13番「なぐさめ」、第14番「シュタイヤ地方のおどり」を抜粋し、楽曲の構成面やリズム感、和声感、メロディー感、フレーズ感などの表現の技能面や、学生自身が、音楽の良さ、楽しさを感じ、それがわかる感性、それを表現できる演奏の基礎づくりについて演奏力、音楽力を培う試みを実施し、昨年度同様幼児音楽の指導法について指導の立場から有効性を考察した。

2、ブルグミュラーについて〔宮崎学園短期大学7号、池田敦子、田中幸子 p 51〕

ヨハン・フリードリヒ・フランツ・ブルグミュラー〔Johann Friedrich Franz Burgmuller, 1806-1874 12月4日〕は南ドイツのレーゲンスブルグで誕生。

父はヨハン・アウグスト・フランツ・ブルグミュラー〔Johann August Franz Burgmuller 1766-1824〕で若いころからワイマールの劇場などの音楽監督を歴任し、デュッセルドルフでは指揮者として働きライン音楽祭を創設、1821年に初代デュッセルドルフ市音楽監督に就任した音楽家である。弟のアウグス・ヨーゼフ・ノベルト・ブルグミュラー〔August Josef Norbe〕とフリードリヒはデュッセルドルフで両親から音楽の指導を受けながら育った。フリードリヒはチェロとピアノの演奏、ノベルトは作曲とピアノの才能を開花させた。

実力派の父はフリードリヒが17歳の時に他界。音楽家としての道を地道に歩み始めた。1834年28歳の時にパリに移り住みピアノ教師をしながら、600曲近くのピアノ小品やバレエ音楽「パリ」、舞台用オーケストラ作品、歌曲なども書いた。

エチュードは「25の練習曲」op.100、「12の練習曲」op.105、「18の練習曲」op.109の3冊を残している。その中でも「25の練習曲」は最も有名な曲である。

3、「25の練習曲」授業内容

筆者がまず演奏し、イメージなど感覚的なこと、演奏テクニック、音楽の理解を深めた。さらに曲の望ましい演奏について明確な表現と、それを習得するための練習についての知識、研究姿勢を持たせ、音楽力と演奏力の上達につなげた。

- ・演奏がどんなふうに聴こえたか感じ取る。
- ・標題からのイメージを考える。
- ・同じ標題、標題を表現した曲を調べ、鑑賞する。
- ・音楽用語を理解し、どの様に演奏するかを考える。
- ・曲の構成を読み取り、和声感、リズム感、旋律感なども考える。
- ・曲の分析をする。

○「25の練習曲」第2番「アラベスク」

◎演奏がどんな風に聴こえたかは、ほとんどの学生が「印象深い曲、16分音符を軽く弾くのが大変そうだが演奏してみたくなる曲」等であった。

◎アラベスクとは建築と装飾の分野では、「唐草もよう」のことである。からみ合った唐草もようはアラビア風デザインのことで、美しいイメージの音楽的、幻想的な流れを持っている曲である。

◎同じ標題では、ローベルト・アレクサンダー・シューマン作曲の〔1810-1856 エンデニヒ〕の「アラベスク op.18」とクロード・アシル・ドビュッシー〔1862-1918 パリ〕作曲の「アラベスク第1番」「アラベスク第2番」を取り上げた。

中でもドビュッシー作曲の「アラベスク第2番」とブルグミュラー作曲の「アラベスク」は標語に《scherzando》指示が入っており、3連符、16分音符などを交えたリズム・モチーフによる躍動的なアラベスクとなっている。筆者が演奏し標題音楽を感じ取ってもらった。

ハ長調で付点のリズムの上に旋律が流れ、メロディーが感傷味をおびた響きがするシューマン作曲の「アラベスク」も鑑賞する様指導した。

◎音楽用語を理解する。

- ・ Allegro scherzando [アレグロ スケルツァンド] 速く、おどけた感じで。
- ・ leggiero [レッジェーロ] 軽く
- ・ cresc. [クレッシェンド] だんだん強く
- ・ dim.e poco rall. [ディミヌエンド・エ・ポコ・ラレンタンド]
だんだん弱く、少しゆるやかに
- ・ in tempo [イン・テンポ] 正確な速さで
- ・ dolce [ドルチェ] 甘く、愛らしく
- ・ ten. [テヌート] 音符の示す長さいっぱいのにばす
- ・ risoluto [リゾルト] 堂々ときっぱり

◎曲の構成を頭に入れ流れを考える。

形式は「前奏 ABA´ コーダ」の 3 部形式 4 分の 2 拍子 イ短調

・ 前奏 [1 小節目～2 小節目]

左手だけのイ短調主和音は、指が鍵盤から離れすぎず音がぬけない様にきれいな打鍵でバランス良く音をつかむ。2 拍子のリズムを感じ、テンポの確立を意識して奏す。

・ A [3 小節目～10 小節目]

3 小節目 16 分音符連続のメロディーラインは、指や手の力を抜いて音が硬くならない様をつぶをそろえて軽やかに奏す。16 分休符は音楽の流れとしてきちんととる。和音伴奏はメロディーとのバランスを考えて、浮かない様に注意しながらピアノで奏す。

5 小節目からのクレッシェンドは、気持ちを盛上げて奏す。

7 小節目から 10 小節目まではハ長調に転調しており明るい流れで奏す。

・ B [11 小節目～18 小節目]

11 小節目からはまたイ短調にもどり、両手ともメロディーを感じフォルテで奏す。

右手のメロディーはレガートで、16 小節の A 音に向かって流れの山を作る。

左手の 16 分音符連続のメロディーは、リズム、テンポの正確さを意識して奏す。

18、19 小節目はだんだん弱くゆるやかにし、レガート、指使い、音量などに注意して気持ちを込めて丁寧に奏す。

・ A´ [20 小節目～27 小節目]

20 小節目からもとのテンポで、短調だが明るいテーマに戻る。

22 小節目からだんだんメロディーは上行、伴奏は下行しながらクレッシェンドで盛り上がり、26 小節目のフレーズの終わりはディミヌエンドで丁寧に歌い奏す。

・ コーダ [27 小節目～最後]

だんだん強く、リゾルト→スフォルツァンドできりっと終わる。

◎曲の分析をした。[楽譜 1]

○第 9 番『狩り』

◎演奏がどの様に聴こえたかは、「勇ましい感じがした。中間に表情が変わった」等であった。

◎「狩り」のイメージは西洋の優雅なスポーツを感じ、前奏がファンファーレのようで、合図を聴いたあと繰り広げられる狩りの様子が思い浮かぶ。標題からのイメージは勇壮で、狩りに伴うロマンティックな要素がある。

◎同じ標題では、フランツ・リスト〔1811-1886 バイロイト〕作曲の「パガニーニ大練習曲第5曲『狩り』 ホ長調」「超絶技巧練習曲第8曲『狩り』 ハ短調」、ヨハン・シュトラウス二世〔1825-1899 ウィーン〕作曲の「ポルカ『狩』作品373 イ長調」を取り上げた。リストの「超絶技巧練習曲第8曲『狩り』」の方はプレスト フリオースで狩りを感じるロマンチックな要素があまりなく荒々しく、激しい曲である。「パガニーニ大練習曲第5曲狩り」は曲の始めに流れるフルートやホルンの音色がのどかな狩りを思い浮かべる曲で、著者が演奏して標題音楽を感じてもらった。

シュトラウスのポルカ「狩」は、ホルンとトランペットによる合図が鳴り、鉄砲まで鳴る爽快な曲である。鑑賞する様指導した。

◎音楽用語を理解する。

- ・ *Allegro vivace* [アレグロ ヴィヴァーチェ] 速く活発に
- ・ *un poco agitato* [ウン ポーコ アジタート] 少し激しく
- ・ *simile* [シミレ] 同様に
- ・ *dolente* [ドレンテ] 悲しげに
- ・ *perdendosi* [ペルデンドシ] だんだんゆっくり、そして弱く
- ・ *rallent* [ラレンタンド] だんだんゆるやかに

◎曲の構成を頭に入れ流れを考える。

形式は「序奏 A B A C A コーダ」のロンド形式 8分の6拍子 ハ長調

- ・ 序奏 [1小節目～4小節目]

4小節のピアノ→クレッシェンド→フォルテの流れは、遠くから狩人が集まる様子が聴く人にわかる様に奏す。

- ・ A [5小節目～12小節目]

5小節～8小節、9小節～12小節は強弱が違う同じメロディー。エコーを意識して奏す。

Allegro vivace だが左手メロディーの重音は、付点4分音符の長さいっぱい伸ばしてフォルテで歌う。動物達の動きの様な右手3連符はスタカートで明瞭に奏す。エコーの感じの9小節目からは静かだが十分に歌い奏す。

- ・ B [13小節目～20小節目]

静かだが少し激しく。右手重音は、ずれない様に注意しながらメロディーを奏す。

左手はアジタートを意識するがリズム、テンポをしっかりとって奏す。

- ・ C [29小節目～36小節目]

ハ長調から、イ短調へ変わる。雰囲気が変わり悲しげなメロディーをレガートに奏す。

メロディーをメゾピアノ、伴奏をピアノッシモでバランスをとり、音量はピアノだがメロディーは浮き出るように奏す。

- ・ コーダ [45小節目～最後]

だんだんゆっくり流れ狩りの終わりを意識しながら奏す。

◎曲の分析をした。〔楽譜2〕

○第13番「なぐさめ」「コンソレーション」

◎演奏がどの様に聴こえたかは、「穏やかで、やわらかく、やさしい曲。なめらかに表情豊かに演奏するのが大変そう」等であった。

◎*Consolation* は、「なぐさめ」の意味で性格的小品として多くの作曲者が題名として取り

上げている。

◎同じ標題では、フランツ・リスト〔1811-1886 バイロイト〕作曲の叙情的な 6 つの小品からなる「コンソレーション第 1 曲、第 2 曲、第 3 曲」を取り上げた。著者が中でも単独で演奏される事が多いしっとりした情緒をもつ「第 3 曲 変ニ長調」を演奏し標題音楽を感じてもらった。

他に「第 1 曲 ホ長調 礼拝」、「第 2 曲 ホ長調 愛の頌歌」なども鑑賞する様指導した。

◎音楽用語を理解する。

- ・ **Allegro moderato** [アレグロ モデラート] ほどよく速く
- ・ **dolce lusingando** [ドルツェ ルジンガンド] やわらかく、やさしく
- ・ **dimin.e poco riten** [ディミヌエンド・エ・ポーコ・リテヌート] だんだん弱く
だんだん遅く

◎曲の構成を頭に入れ流れを考える。

形式は〔序奏 A B コーダ〕の二部形式 4 分の 4 拍子 ハ長調

- ・ 序奏 [1 小節目～7 小節目]

滑らかでやわらかく、やさしい音色を出すのはとても高度なテクニックが必要である。全音符をしっかり支え、手の力を抜き 8 分音符の動きをレガートで奏す。

- ・ A [8 小節目～23 小節目]

テンポは **in tempo** にもどす。ソプラノの 4 分音符のメロディーは、やさしく語りかけるようにレガートに奏す。拍の裏になるアルト G 音はメロディーとのバランスを考えて奏す。11 小節 3・4 拍目と 12 小節 1 拍目、19 小節 3・4 拍目と 20 小節 1 拍目のアルトラインは、ソプラノが休符なので、メロディーラインが消されない様にピアニッシモでレガートに奏す。14、15 小節と 22、23 小節はだんだん弱く、だんだんゆっくり休符をはさんで **in tempo** にもどす。

- ・ B [24 小節 6 拍目～39 小節半拍目]

両手の滑らかなメロディーを、G 音のみの伴奏で表情豊かに奏す。伴奏を弾く左手 1 の指、右手 5 の指は力を入れず硬くならないで、メロディーとのバランスを考えて奏し、6 度音程のメロディーの響きと音楽のふくらみを意識して奏す。

- ・ コーダ [39 小節半拍目～42 小節目]

静かにやすらぎを感じるように C-E-D-H、C-E-D-H-C-G-C とメロディーがだんだん消えるように奏す。

◎曲の分析をした。〔楽譜 3〕

○第 14 番「シュタイヤ地方のおどり」「アルプスのおどり」「スティリエンヌ」

◎演奏がどの様に聴こえたかは、「音が跳んで難しそうな箇所があるが、楽しそうで踊りたくなる様な曲」等であった。

◎「シュタイヤ地方」はオーストリア州の名前で、スティリエンヌはもともと 3 拍子のレントラーという民族舞曲である。

◎同じ様な標題では、フランソワ・ショパン〔1810-1849 パリ〕作曲の「華麗なワルツ作品 34 の 1 変イ長調」「子犬のワルツ 作品 64 の 1」、ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー〔1840-1893 ペテルブルク〕作曲の「感傷的なワルツ 作品 51 の 6」を

取り上げた。「感傷的なワルツ」は、表情豊かでセンチメンタルな旋律をもつ魅力的な曲である。筆者が演奏し標題音楽を感じ取ってもらった。

ショパン作曲の「華麗なワルツ、子犬のワルツ」はポピュラーで広く知られている曲である。鑑賞する様指導した。

◎音楽用語を理解する。

- ・ **Mouvement de valse** [ムブマン ドゥ ヴァルス] ワルツの速さで
- ・ **grazioso** [グラツィオーソ] 優美に
- ・ **dim.rall** [ディミヌエンド・ラレンタン] だんだん弱く、だんだんゆるやかに
- ・ **deciso** [デチーゾ] はっきりと

◎曲の構成を頭に入れ流れを考える。

形式は「前奏 ABCDABC」の3部形式 4分の3拍子 変イ長調

・ 前奏 [1小節目～4小節目 1拍半]

Cisの音は軽くDの音はしっかりアクセントをつけ響かせたうえで、右手の上の旋律線と左手の上の旋律線6度下行の流れを意識して美しく奏す。

・ A [4小節目 1拍半～12小節目 1拍半]

軽いスタカートで3拍子の優美なワルツの踊りに入っていく。ワルツの強、弱、弱のアクセントは1拍目にペダルを使い響きを作る。左手伴奏の8分休符に気をつけて、スタカート、レガートの記号を大切に扱い奏す。7小節、11小節の1拍目前打音は拍と同時に奏す。

・ B [12小節目 1拍半～20小節目]

平行調のホ短調に変わり、全体がレガートで滑らかなメロディーはメゾフォルテで少し悲しげに奏す。伴奏の付点2分音符はテヌート気味に扱う。14、15、18、19小節の複前打音は拍と

同時に奏す。20小節目の2拍目、3拍目の流れを大切にだんだんゆっくりと奏す。

・ C [21小節目～28小節目 1拍半]

調性はAのト長調にもどる。21、22、25、26小節複前打音は拍と同時に奏す。21～24小節は甘く、やわらかいワルツ。25～28小節はしっかりした踊りで奏す。

・ D [28小節目 1拍半～36小節目 1拍目]

調性は下屬調のハ長調になる。しっかり、はっきりとした旋律をフォルテで奏す。

スタカートの高い音域は強く確実に音をつかんで奏す。小節にまたがったディミヌエンドのスラーを丁寧に扱う。伴奏のバスラインも大切に歌い、メロディーと伴奏のバランスを大切に奏す。

◎曲の分析をした。[楽譜 4]

○考察

保育科「器楽Ⅰ、Ⅱ」の最大の目標は「弾き歌い」である。歌唱においてまず演奏者は、歌詞を理解し、作曲者の伝えたいことを表現しなければならない。

作品の解釈を明瞭にするためには音楽力、演奏力が必要である。

ブルグミュラー作曲「25の練習曲」を教材の一部として使用したのは半期で数曲であったが、鑑賞により全体を通して曲想を感じ取る能力が養われ、標題音楽から標題に合った音楽表現、音楽表現するための技能向上、また曲の構造を考えることにより楽譜力が養われ、知覚的に聴き取る能力、さらに音楽用語を理解する事により音楽の流れを把握、曲の分析をすることにより楽曲の適切な作品解釈の向上につながり、無意識な演奏でなく、音楽を立体的に把握することが出来るようになった。これらの事は、「弾き歌い」にもつながる能力である。

学生が入学時に比べ確かに上達したのは、演奏、弾き歌いをする上で演奏内容の明確化が出来た事である。この勉強が現場での指導内容の明確化につながる事が大切である。今後もブルグミュラー作曲「25の練習曲」をできるだけ授業に取り入れて、学生のピアノ技術の向上に力を注ぎたいと思う。

今後残りの曲を文章化することを課題として研究していきたい。

[1]

Arabesque

アラベスク

Allegro scherzando (♩ = 152)

2

前奏 p $a: I$ I A I I IV^2 I

7

$C: I^2$ V_7 V_7^* I $a: V^*$ I B $a: V^1$ I

13

V^1 I IV^1 IV $(4\ 5\ 3)$ II^1 V

19 in tempo

A' I I IV^2 I V_7 I V_7^* I

26

I G I IV^2 I IV^2 I I I $*$

狩り

Allegro vivace (♩ = 104~132)

Allegro vivace (♩. = 104 ~ 132)

9

cresc.

p

f

6

12

p un poco agitato

17

23

29 *p dolente*

34

39

45

51

cresc.

f

mf

p

pp

rallent.

Handwritten musical notation and chord symbols (I, V, I', V⁷, etc.) are present throughout the score.

なぐさめ

Allegro moderato (♩ = 152)

[illegible]

21 *in tempo*
dimin. e poco riten. *p*
 $\frac{1}{4}(\frac{2}{5})$ $\frac{3}{5}$ $\frac{3}{5}$ $\frac{3}{5}$
 $e: I^2$ V_7 I $\boxed{B} C: V_7^3 V_7^2 I' I$

26 *cresc.* *mf*
 V^2 V_7^3 I' V' I V_7 V_7^2 I' I

30 *p*
 V^2 V_7 I V_7^3 V_7^2 I' I

34 *cresc.* *mf*
 V V_7^3 I' V' I V_7^3 V_7^2 I' I

38 *p* *dimin. e poco riten.* *p*
 V^2 V_7 I $\boxed{p-g}$ V_7 I V_7 I

[4]

La styrienne

シュタイヤ地方のおどり

〈アルプスのおどり〉

Mouvement de valse (♩=176)

14 *mf* *p grazioso*

6 *mf*

11 *mf*

16 *dim. rall.*

21 *in tempo* *p* *dolce*

前奏 G: ∇_7 — — ∇ [A] I

[B] e: I ∇_7 ∇_7 I

[C] G: ∇_7 I ∇_7 I ∇_7 I

27 *f* *deciso*

33 *p* *grazioso*

39

45 *mf*

50 *dim. rall.* *p* *dolce* *in tempo*

56 *f* *mf*

Harmonic analysis symbols: V_7 , I , D , C , V_7 , I , V_7^3 , I' , V_7 , I , A , G , I , V_7 , I , V_7 , I , B , e , I , V_7 , V_7 , I , I , I , V_7 , I , C , G , V_7 , I , V_7 , I , I

参考文献

- 1) 宮崎学園短期大学紀要第7号 池田敦子 田中幸子 51 p p
- 2) 初等科音楽教育法〔改訂版〕、10－11 p p、音楽之友社〔2011〕
- 3) 千蔵八郎：名曲事典 400 p p、402 p p、466 p p、538 p p、544 p p、742 p p、音楽之友社〔1976〕

参考楽譜

- 1) 松本倫子編：新こどものブルグミュラー、全音楽譜出版
- 2) 春畑セロリ：ブルクミュラー25の練習曲、音楽之友社
- 3) 北村知恵：ブルクミュラー25の練習曲、全音楽譜出版社
- 4) 六島礼子：ブルクミュラー25の練習曲、ショパン出版
- 5) 井内澄子：ブルクミュラー・25の練習曲、カワイ出版